

(別添4)

【八潮市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

これからの未来を豊かに生きていくには、自ら課題を見付け主体的に判断し解決に向け粘り強く取り組む力が求められている。これを実現するために、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」「探究的な学びの充実」に向け、これまで培ってきた授業実践に、一人一台端末を始めとするICT環境をベストミックスさせた授業改善に取り組んでいく。

その際、ICTを活用し、一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うなどの「指導の個別化」、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」の充実を図っていく。また、児童・生徒が自ら判断し、創造性を発揮して必要な時に適切な（ふさわしい）使い方で、自由な発想で活用できるよう、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図っていく。

2. GIGA第1期の総括

本市では令和2年度に「八潮市GIGAスクール構想」を策定し、八潮市が目指す学校教育における情報化の基本的な考え方と方向性を示し、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや、創造性を育む新しい八潮の教育を推進してきた。

令和2年度末には、市内の全児童・生徒と教職員への一人一台端末の配付を完了し、学校現場での一人一台端末の本格的な運用が始まった。また、それ以降、活用段階に応じた研修を実施するなどし、教職員の情報活用能力・指導力の向上を図ってきた。また、小学校でプログラミング教育が始まるにあたり、市内の小学校に研究委嘱し、外部講師を招き2年間にわたり研究を重ねた。

令和4年度には、八潮市小中一貫教育推進検討部会に「ICT部会」が新設され、各校のICT推進担当が集まり、小中9年間を見通したICT活用推進について話し合ってきた。ここでは、本市が目指す授業展開を示したモデルである「八潮市スタンダード」にICTを組み合わせた「八潮スタンダード×ICT」を作成し、市内の教職員に周知した。また、「八潮市プログラミング教育の手引き」も作成した。さらに、ICT活用サイトを開設しICTに関するオンデマンド研修動画や各種資料を取りまとめた。

令和5年度には、ICT部会で「情報活用能力体系表 八潮市版」を作成し、情報活用能力の育成に取り組むほか、ICTの効果的な活用について継続して研究に取り組んだ。一方で、各校でも課題研究の手立ての一つに「ICT活用」を取り入れるようになり、授業でのICT活用は日常となっている。また、令和6年度には講師を招き「ICTを活用した単元内自由進度学習」に取り組むなど、ICTを活用した新たな学びについても積極的に挑戦している。

これまでの取り組みの成果と課題は以下のとおりである。

成果

- ①授業での端末の活用が日常となった。令和6年6月に実施した調査で、「端末の授業での活用」に関して「ほぼ毎日使用している」と回答した教職員の割合は、小学校で66.3%、中学校で39.5%となった。令和4年度の同時期の調査結果は、小学校で42.9%、中学校で18.6%であったので、小・中ともに20ポイント以上、上昇した。
- ②中学校の総合的な学習の時間の取組では、企業とのつながりの中で一人一台端末が有効活用されている。年に数回程度しか来校できないゲストティーチャーとクラスルームでつながることで、日々の学習の中で生じた疑問等をオンラインで質問し、回答や助言を得ることができた。このように、時間や場所の制約を取り払った効果的な活用事例が増えてきた。
- ③学習した成果等のアウトプットの手段として、Googleスライド、Googleサイトなどのデジタルツールの活用が積極的に行われるようになった。

課題

- ・ 端末の故障・破損への対応に時間と費用を要している。第2期では、十分な予備機の購入と第1期の購入端末の効果的な活用を行うことでこれに対応する。また、「GIGA端末の手引き（児童・生徒、保護者用）」を活用するなどして、各校で端末の丁寧な取り扱いについて引き続き指導をお願いする。
- ・ 各校のネットワーク機器の性能や回線契約、地域の特色等により、端末を活用したクラウドベースの学習を実施する際、繋がりにくくなるなどの事象が生じることがある。安心して活用してもらうために、ネットワークの改善を実施する予定である。
- ・ 全体の端末活用率は高いものの、依然として学校間、校種間で格差がある。ICT部会を中心に継続して活用推進に取り組んでいく。また、段階に応じた教職員向けの研修を計画的に実施し、教職員の情報活用能力・指導力を着実に向上させていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

「2」の総括を踏まえ、「1」で示した「目指す学びの姿」の実現に向け、下記の基本方針に基づき利活用を進めていく。そのために、端末の整備・更新を計画的に進め、児童・生徒が一人一台端末を利活用できる環境を維持していく。

(1)一人一台端末の日常的な活用に向けて

- ①「効果的な端末の活用」を大切な視点としつつも、効果の有無で活用の是非を判断しないよう、学習の基本的なツールの一つとして位置付ける。
- ②段階に応じた研修を計画し、教職員の汎用的なソフトウェアを基本とした情報活用能力・指導力の向上を図る。
- ③日常業務である校務での汎用的なソフトウェアの活用を推進し、授業での活用につなげる。市内5校にGoogle事例校認定を目指した学習・校務の両面での活用推進をお願いしており、これらの実践を他校に広げていく。

(2)個別最適で協働的な学びの一体的な充実に向けて

- ①端末を使用することで充実する、個別最適で協働的な学びについてのイメージを共有するため、端末やソフトの操作・活用法の研修だけでなく、先進校の事例紹介や有識者を招いた研修等も実施する。また、文科省のGIGA StuDX StyleやYouTubeのオンデマンド研修資料を積極的に活用する。

- ②小中一貫教育推進検討部会「まなび（学力）部会」と連携し、これまでの八潮市の教育実践のノウハウと、ICTを活用することで実現する新しい学びのベストミックスを追求する体制を整える。
- ③授業者の計画のもと、一人一人の学習者が、学習方法や学習過程等を選択し、自らの学びを調整しながら進める学習法など、端末を活用することで実現する新しい学びについて調査・研究する。
- ④児童・生徒が自ら判断し、必要な時に適切な（ふさわしい）使い方で、自由な発想で活用できるよう、学習の基盤となる情報活用能力の育成を図っていく。

(3)誰一人取り残さない学び充実に向けて

- ①児童生徒の悩みや心の不調等を早期発見し、支援につなげる手段として、一人一台端末を活用した心の健康観察の実施に向けた取組を進める。
- ②様々な事情で登校できない児童・生徒、登校したが教室に入れない児童・生徒等の学びの保証として、オンライン授業、オンデマンド教材、学習支援アプリの活用など、ICTを活用した学習支援を充実させる。
- ③十分な予備端末を準備し、故障や破損等の際に速やかに代替機を使用できる環境を整え、一人一台端末を活用した学びに支障が生じないようにする。